

「自己学習能力」とは何かを考える

開倫塾

塾長 林 明夫

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」を聴いていただきましてありがとうございます。勉強の仕方についての話をずっとしておりますが、今回は、自分で勉強する能力、つまり「自己学習能力」はいつ頃までに身に付ければよいのかについて、お話をさせていただきます。

一生涯勉強し続けるわけですが、勉強の仕方の基礎は、できれば大学や短期大学、専門学校などいわゆる高等教育機関に入る前までに身に付けたほうがよいと思います。最近、高校卒業後に高等教育機関に進学する人は、全体の約 74 %に上ります。高等教育機関では、勉強の仕方の基礎が身に付いていることを前提に授業が進んでいきます。具体的には、高等教育機関ではすべて予習してあることが前提になっているということです。1時間の授業に対し、2時間の予習が必要です。そこで分からないことがあれば、図書館で辞書や百科事典を使い調べておきます。ですから、図書館の使い方を、高校生のうちに自分のスキルとして身に付けておくことが必要になります。また、遅刻、早退、欠席をしないことです。そして、当たり前のことですが、授業中はおしゃべりをしない、携帯電話を使わない、居眠りをしないことです。

授業や研究会が終わった後は、その内容をノートにまとめます。そこで、ノートの使い方が重要になってきます。高度な内容を勉強しますから、自分なりに工夫して使うことも必要です。ノートは、英語で notebook と言いますから、自分でまとめたノートは自分だけの本になります。そのためには、ノートの上質な使い方を身に付けることが大切です。そして、そのノートを使い、勉強した内容を暗記するのです。

私は、身に付けるための作業を「定着のための作業」と言っています。この「定着のための作業」をどのようにするかということも、身に付けておかなければなりません。

さらに、テストの受け方です。大学にもテストがあります。豆テストに始まり単元別テスト、学年末テストなどです。例えば、内容が難しい学年末テスト、この1月下旬から2月上旬にかけて行われるテストは、前年の11月末までに1度は勉強をやり終えていなければ、よい成績は残せません。早め早めに、試験の2か月くらい前までには、範囲内の勉強をすべて終わらせて万全の態勢を整える。そして、1月、2月は、より高い点数を取れるように、暗記や理解をより確実なものにしていく。こ

のようなテストの受け方も、スキルとして身に付ける必要があります。以上、お話したことが「自己学習能力」です。

「自己学習能力」を身に付けるタイムリミットは、高等教育機関に進学するまで、つまり高校卒業までです。この放送をお聴きの先生方やご家族の方は、このことをお子さんに伝えて下さい。この「自己学習能力」に加えて身に付けなければいけないことは、誰の世話にもならず、一人暮らしができる能力です。ご家族の方は、お子さんが自分で、炊事、洗濯、掃除、料理などができるように仕込んでほしいと思います。これが、親のする最後の教育であると思います。